



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

バハレーン情勢：国民対話の開始

2011年2月半ばから約1カ月にわたり繰り広げられた民主化要求運動（シーア派主導）とそれに対する政府（スンナ派王家）の弾圧によって、バハレーン社会に亀裂が生じた。これを受けてハマド国王が呼びかけていた国民対話が2日に始まったところ、この国民対話関連の動きに関する現地報道ぶりは以下の通り。

(1) ウィファークの動き

7月1日夕刻、バハレーン北西部のディラズ地区で行われた（当局に認可された）政治集会において、シーア派政党で最大野党、ウィファークのアリー・サルマーン代表は、ウィファークは国民対話に参加する、民意を反映した内閣と選挙された議会の設立、一票の平等の原則に基づく選挙区配分の改正を求める我々の要求を取り下げることにはしないと述べた（7月2日付シーア派系ワサト紙）。

(2) 7月2日の動き

(a) 治安関連の動き

2日早朝、数十人の被拘留者が釈放された。ワサト紙が得た情報によると国家安全事態裁判所から通常裁判所に移管された容疑者等も含まれている模様。なお、治安当局から関連の発表はされていない（7月3日付ワサト紙。同日付政府系アイヤーム紙は109人と報道）。

(b) 国民対話開会式

2日午前10時より、国民対話開会式が開催された。ザハラーニ国民議会議長は開会演説の中で、提出された全ての見解・議題案が対話において審議される、合意事項はハマド国王に上程されると述べた。この後、イーサ・アブドルラフマーン国民対話報道官は、国民対話の参加者数等の集計結果や提出された見解・議題について説明。全体で30分ほどで閉会（2日付 Bahrain News Agency）。

同日、300以上の個人・団体が国民対話への参加登録を行った（7月3日付英字紙ガルフデイリーニュース）。